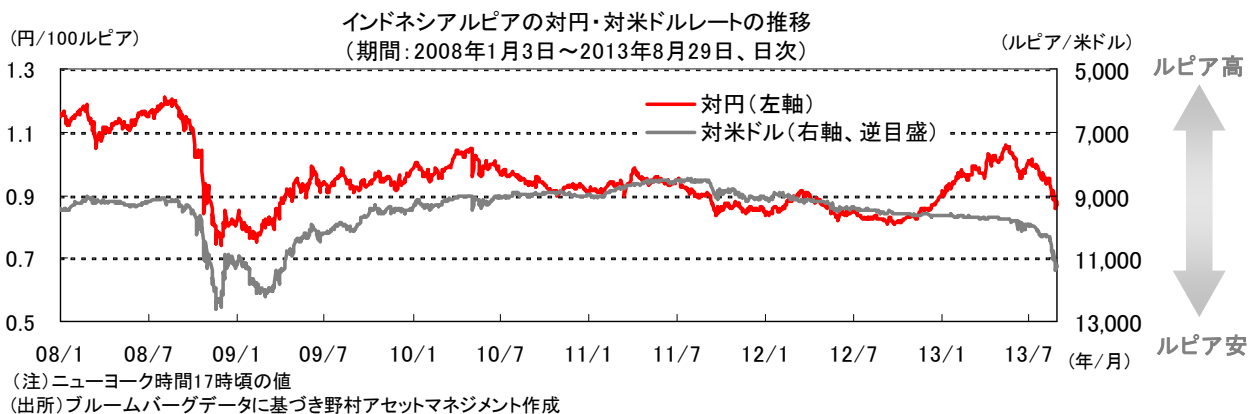
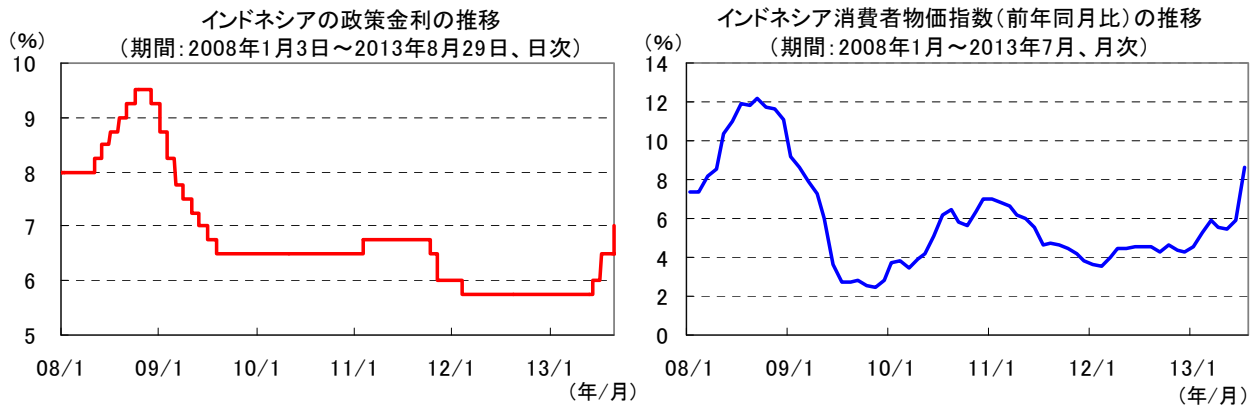


8月29日発表のインドネシアの利上げについて

2013年8月29日、インドネシア中央銀行は臨時の金融政策決定会合を開き、政策金利を0.50%引き上げ、年率7.00%とすることを決定しました。同時に、市中銀行が中央銀行に資金を預け入れる際の「預金ファシリティー金利」を0.50%引き上げて5.25%に、市中銀行が中央銀行から資金を借り入れる際の「貸出ファシリティー金利」も0.25%引き上げて、7.00%としました。また、同中銀は日本銀行と120億米ドル規模の2国間通貨スワップ協定を延長したことを発表しました。引き続き、両中銀は相互に外貨を融通することができます。

同中銀は今年15日の会合で政策金利を据え置いていましたが、「世界経済の不透明感、高いインフレ期待、大幅な経常赤字を反映した圧力の強まり」を背景に、9月12日に予定されていた会合を待たずに利上げに踏み切りました。今回の利上げについて同中銀は、「インフレ期待をコントロールするとともに、通貨安による輸入物価上昇がインフレを加速させ、それが一段の通貨安をもたらすリスクを抑制するため」としています。

8月29日の外国為替市場(ニューヨーク時間17時頃)では、対米ドルで前日比0.3%、対円で同0.9%のインドネシアルピア高となっています。



以上

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。